

第9節 外国語

第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

指導計画の作成に当たっては、小・中・高等学校を通じた領域別の目標設定という観点を踏まえ、小学校や高等学校における指導との接続に留意する。

また、外国語科の指導に当たっては、(1)「知識及び技能」が習得されること、(2)「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、(3)「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。

さらに、学年ごとの目標を適切に定め、3年間を通じた外国語科の目標の実現を図るようにする。

外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」

目標の実現を目指した指導

育成を目指す資質・能力

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

(波線部は小学校外国語科の目標との主な差異)

英語では、外国語科の目標を踏まえ、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域ごとに具体的な目標を設定した。

領域	目標
(1) 聞くこと	ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。
(2) 読むこと	ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
(3) 話すこと [やり取り]	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
(5) 書くこと	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

各学校では、学校教育目標の実現を目指し、生徒、学校、地域の実態等を考慮し、創意を生かし、次の点に留意して目標を適切に定めることが必要である。

- (1) 生徒の学習段階、興味・関心等の実態等を的確に把握する。
- (2) 小学校における外国語の内容や指導の実態等を十分に把握する。
- (3) 五つの領域別の目標を踏まえながら、より具体的な言語材料と言語活動を統合して、学習到達目標（「CAN-DO リスト」の形）を設定する。

2 指導計画作成の一般的な手順 ⇒ P146 7(1) 参照

(1) 年間指導計画の作成 ⇒ P147 7(2) 参照

「1 指導計画作成の基本的な考え方」を踏まえ、3年間で自校の定める学習到達目標の達成を図る。そのために、学年ごとの学習到達目標を定め、年間指導計画を作成する。その際に、取り扱う内容については、平易なものから難しいものへと段階的に取り扱うことや生徒の発達の段階や学習の目的に鑑み、それぞれの言語材料をどの程度まで習得させる必要があるかを見極めていく。

(2) 単元計画の作成 ⇒ P149 7(3) 参照

単元終了時に育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現を図りつつ、言語活動の設定を適切に行う。

(3) 1単位時間の指導計画の作成 ⇒ P150 7(4) 参照

単元計画に基づき指導内容を焦点化し、生徒の実態に合った指導方法や学習形態を取り入れる。

3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点

障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

(3) 「教科等横断的」な視点

言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点

指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

(5) 「道徳教育の充実」の視点

ア 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つ題材を選択すること。

イ 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つ題材を選択すること。

ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つ題材を選択すること。

第2 指導計画作成のための資料

1 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

2 外国語科の目標（「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表【目標】）

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（知識・技能）	(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
（思考力・判断力・表現力等）	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
（学びに向かう力・人間性等）	(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 英語の目標（「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表【5つの領域別の目標】）

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。	ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。 ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。
読むこと		ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
話すこと 【やり取り】	ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりできるようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりできるようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
話すこと 【発表】	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。
書くこと		ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。	イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

4 内容〔外国語の言語材料〕の学校段階別一覧表

	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
音声	次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。 (ア) 現代の標準的な発音 (イ) 語と語の連結による音の変化 (ウ) 語や句、文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り	次に示す事項について取り扱うこと。 (ア) 現代の標準的な発音 (イ) 語と語の連結による音の変化 (ウ) 語や句、文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り
文字及び符号／符号	(ア) 活字体の大文字、小文字 (イ) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号	感嘆符、引用符などの符号
語、連語及び慣用表現	(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語 (イ) 連語のうち、get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの (ウ) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの	(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語 (イ) 連語のうち、活用頻度の高いもの (ウ) 慣用表現のうち、活用頻度の高いもの
文及び文構造／文、文構造及び文法事項	次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。	小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)のエ及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。
	文 a 単文 b 肯定、否定の平叙文 c 肯定、否定の命令文 d 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞(can, doなど)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの	a 重文、複文 b 疑問文のうち、助動詞(may, willなど)で始まるものやorを含むもの、疑問詞(which, whose)で始まるもの c 感嘆文のうち基本的なもの
	文構造 a 〔主語＋動詞〕 b 〔主語＋動詞＋補語〕のうち、主語＋be動詞＋名詞／代名詞／形容詞 c 〔主語＋動詞＋目的語〕のうち、主語＋動詞＋名詞／代名詞	a 〔主語＋動詞＋補語〕のうち、主語＋be動詞以外の動詞＋名詞／形容詞 b 〔主語＋動詞＋目的語〕のうち、 (a) 主語＋動詞＋動名詞／to不定詞／how(など)to不定詞 (b) 主語＋動詞＋thatで始まる節／whatなどで始まる節 c 〔主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語〕のうち、 (a) 主語＋動詞＋間接目的語＋名詞／代名詞 (b) 主語＋動詞＋間接目的語＋how(など)to不定詞 (c) 主語＋動詞＋間接目的語＋thatで始まる節／whatなどで始まる節 d 〔主語＋動詞＋目的語＋補語〕のうち、 (a) 主語＋動詞＋目的語＋名詞／形容詞 (b) 主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞 e その他 (a) There＋be動詞＋～ (b) It＋be動詞＋～(＋for～)＋to不定詞 (c) 主語＋tell, wantなど＋目的語＋to不定詞 (d) 主語＋be動詞＋形容詞＋thatで始まる節
文法事項	a 代名詞 (a) 人称や指示、疑問、数量を表すもの (b) 関係代名詞のうち、主格のthat, which, who, 目的格のthat, whichの制限的用法 b 接続詞 c 助動詞 d 前置詞 e 動詞の時制及び相など 現在形や過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、現在完了進行形、助動詞などを用いた未来表現 f 形容詞や副詞を用いた比較表現 g to不定詞 h 動名詞 i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法 j 受け身 k 仮定法のうち基本的なもの	

5 内容〔外国語活動・外国語の言語活動の例〕の学校段階別一覧表

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
聞くこと	(7) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動。	(7) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(7) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。
	(4) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	(4) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。	(4) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。
	(9) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。	(9) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。	(9) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に回答する活動。
			(1) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。
読むこと		(7) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。	(7) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するように音読したりする活動。
		(4) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。	(4) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。
		(9) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。	(9) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。
		(1) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。	(1) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。
話すこと [やり取り]	(7) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。	(7) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。	(7) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に回答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。
	(4) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。	(4) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。	(4) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。
	(9) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	(9) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。	(9) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に回答したり自ら質問し返したりする活動。
話すこと [発表]	(7) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	(7) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。	(7) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。
	(4) 自分の好き嫌い、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。	(4) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。	(4) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。
	(9) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(9) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	(9) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。
書くこと		(7) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。	(7) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。
		(4) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。	(4) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。
		(9) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。	(9) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。
		(1) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。	(1) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。

6 五つの領域別の目標を踏まえた学習到達目標（「CAN-DO リスト」の形）の設定

参考『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』（平成25年3月文部科学省）

(1) 学習到達目標の意味及び目的

学習到達目標は、学習指導要領に基づき、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、主に教員が生徒の指導と評価の改善に活用する。

(2) 学習到達目標設定の手順

既に各学校で行われているとおり、この取組は、各学校が、学習指導要領を踏まえて、学年ごとの目標を「学習到達目標」として生徒に求められる英語力を達成するために具体的な形で設定するものである。今後は、今回の学習指導要領改訂で領域別の目標が明確に示されたことにより、その目標と関連付けられた学習到達目標とする必要がある。

ア 検討体制

学習到達目標の設定過程に外国語科担当教員等全員が参加し、管理職の理解や協力、リーダーシップのもと、「言語を用いて何ができるようになるか」という観点から、生徒の実態を踏まえた上で、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を共有する体制を構築する。

イ 卒業時の学習到達目標の設定

生徒の学習の状況や地域の実態等を踏まえた上で、卒業時の学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」（能力記述文）という形で設定する。

ウ 学年ごとの学習到達目標の設定

卒業時の学習到達目標を達成するための学年ごとの目標について、五つの領域において「～することができる」という形（「CAN-DO リスト」の形）で設定する。

(3) 年間指導計画、評価計画及び単元計画への反映

ア 「CAN-DO リスト」の形で設定した学年ごとの学習到達目標を年間指導計画等に関連付ける。また、各学校で実際に行われる学習活動を基に、各単元における目標及び評価規準等を設定する。

イ 教科書を中心に、単元の目標を達成するのに適した教材を活用した学習指導を計画する。

ウ 目標の達成状況を把握するための具体的な評価を計画し、単元計画に関連付ける。

(4) 実際の授業と評価

ア 「言語を用いて何ができるようになるか」という観点から計画した授業を実施する。

イ 評価については、計画に従い、学習活動の特質等に応じて、生徒の学習状況を的確に評価できる方法で実施する。

評価方法の例

面接、エッセー、対話やスピーチ等のパフォーマンス評価、観察等、多肢選択形式等の筆記テストのみに留まらない評価など

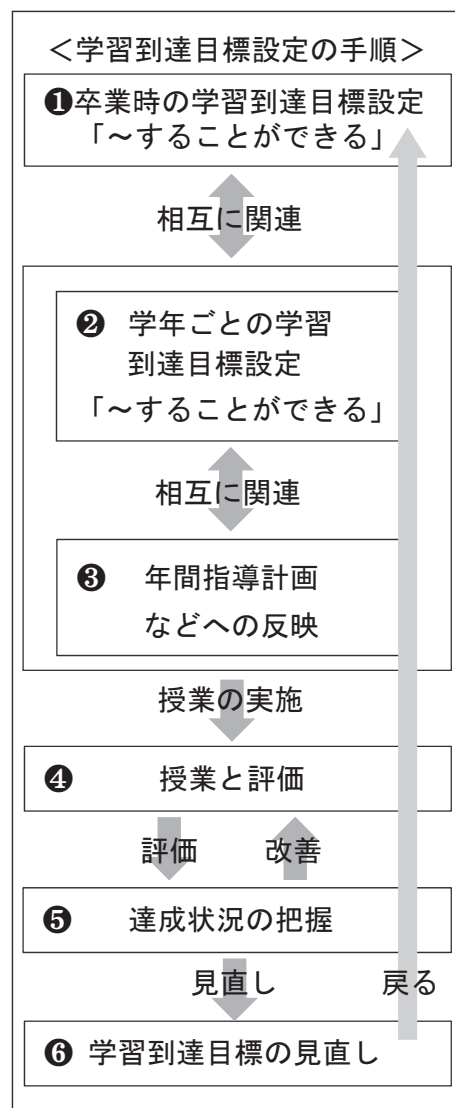
ウ 単元やある程度まとまった区切りの中で適切に設定した時期において評価する。さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめる。

(5) 達成状況の把握

各単元の目標や学年ごとの学習到達目標の達成状況を把握し、指導や評価の改善に生かす。

(6) 学習到達目標の見直し

設定した卒業時及び学年ごとの学習到達目標が適切であったかどうかを検討し、必要に応じて見直す。



(7) 学習到達目標作成の留意事項

- ア 「能力記述文」とは、学習した後に、言語を使って行動する主体として何ができるようになるかを記述したものであり、外国語科においては、五つの領域において何ができるようになるかを「～することができる」という形で具体的に記述したものである。
- イ 能力記述文は、以下の要件を備えていることが望ましい。
 - (ア) ある言語の具体的な使用場面における言語活動を表していること
 - (イ) 学習活動の一環として行う言語活動であり、各学校が適切な評価方法を用いて評価できること
- ウ 能力記述文の具体性は、あまり細かな数値的目安を含めるよりも、学習指導要領で示されている外国語科の内容における表現の程度にしておくこと、年間指導計画や単元計画と適切に関連付けしやすくなると考えられる。

(8) 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標例

〇〇立△△中学校「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標	
【〇〇立△△中学校 学校教育目標】	
・互いに気持ちや考えを伝え合う生徒	・高い知性をもつ生徒
【外国語科の目標】	
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	
(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを用いてコミュニケーションを図ろうとする。	
(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。	
【〇〇立△△中学校外国語科の目標 (例)】	
外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、五つの領域の統合的な活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする資質・能力を養い、より豊かな国際性を身に付ける。	

この部分について、年間指導計画への反映事例として、P147「7(2) 年間指導計画の例 (第2学年)」以降に関連付けしている。(※ここではわかりやすいように太字で表記した。)

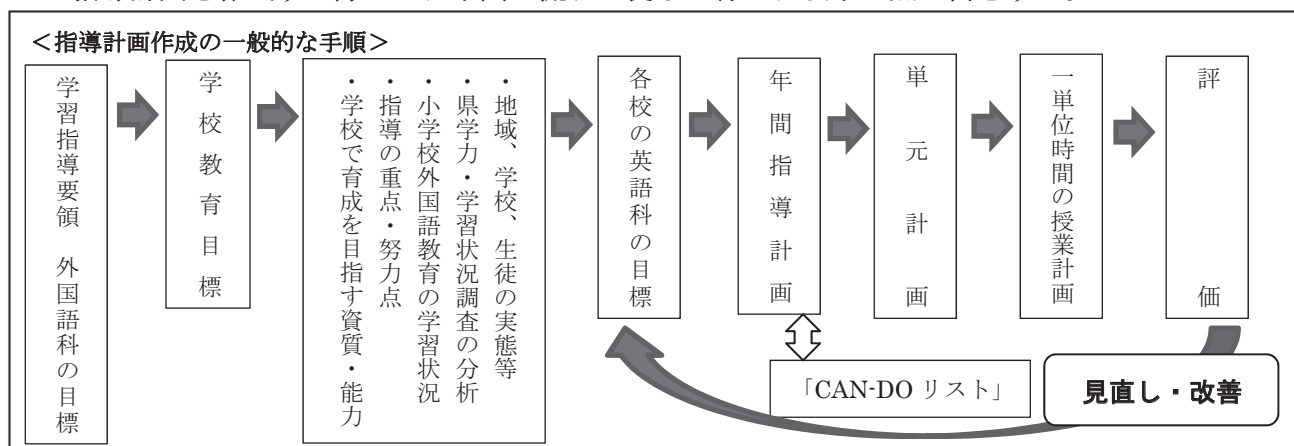
	聞くこと	読むこと	話すこと		書くこと
			[やり取り]	[発表]	
卒業時	様々な施設でのアナウンスや簡単なインタビューを聞いて、大事な情報を把握することができる。	ALT の卒業に向けたメッセージの内容を読んで、その概要や要点を理解することができる。	卒業に向けた思いを具体的な事例を使いながら論理的に伝え合うことができる。	学校生活で頑張ったことや将来の夢などについて、論理的に説明することができる。	学校生活で頑張ったことや将来の夢など論理的な文章で伝えることができる。
2学年 修了時	簡単な電話の伝言や旅行ガイドを聞いて、必要な情報を把握することができる。	簡単なノンフィクションや物語を読んで、その概要や要点を理解することができる。	与えられたテーマについて、自分の考えを整理しながら対話することができる。	日本の文化や自分が関心のあることについて、 情報を整理しながら説明することができる。	日本の文化や自分が関心のあることについて、情報を整理しながら文章で伝えることができる。
1学年 修了時	ALT の話を聞いて大事な情報・要点を把握することができる。	簡単な英語で書かれた物語を読んで、概要や要点を把握することができる。	休日や週末についての対話で互いに理解し易いように伝え合うことができる。	家族や友達の紹介において、聞き手が理解し易いように伝えることができる。	家族や友達の紹介について、まとまりのある一貫した文章で伝えることができる。
評価	・授業での聴解力評価 ・定期テスト ・パフォーマンステスト	・授業での読解力評価 ・定期テスト	・授業での対話力評価 ・パフォーマンステスト	・授業での表現力評価 ・パフォーマンステスト	・授業での文章力評価 ・定期テスト

7 年間指導計画、単元計画、1 単位時間の指導計画

(1) 指導計画作成の手順・留意事項

ア 指導計画作成の一般的な手順

指導計画を作成する際には、下図の流れに従って行い、以下の点に留意する。



イ 留意事項

小・中・高等学校を通じた領域別の目標の設定という観点を踏まえ、小学校や高等学校における指導との接続に留意する。各領域別に目標を並べることにより、小学校段階でどのようなことを指導したのかを把握し、小学校段階との接続を十分に検討する。

- (ア) 単元などのまとまりで、資質・能力の育成に向けて主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (イ) 学習到達目標（「CAN-DO リスト」の形）を設定し、3 学年を通じた目標の実現を図る。
- (ウ) 小学校で扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を、中学校において小学校とは異なる場面で使ったり、別の意味で活用したりするなど、言語活動において、繰り返し活用し定着を図ることができるような指導計画にする。

領域別の目標を比較し、中学校で「何ができるようになるか」を明確に把握する。（下線部は小学校との主な違い）

例) 話すこと [やり取り]の目標

小学校第5学年及び第6学年

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

中学校

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

- (エ) 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業は英語で行うことを基本とする。
- (オ) 題材は、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりする。

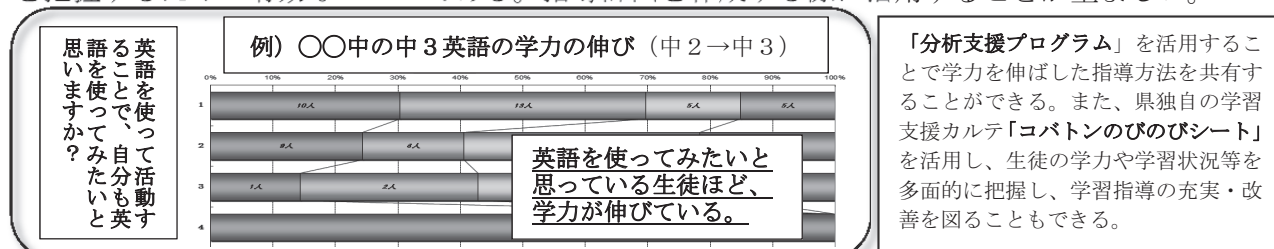
<例：国語科との連携>

言語能力の向上の観点から、「提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価したりする活動」といった国語科での言語活動を想起させ、英語でのスピーチや意見交換などの活動に生かす。

- (カ) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- (キ) ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図る。

ウ 埼玉県学力・学習状況調査の活用

埼玉県学力・学習状況調査の「分析支援プログラム」は、生徒の学力等の実態を踏まえた課題を把握するための有効なツールである。指導計画を作成する際に活用することが望ましい。



「分析支援プログラム」を活用することで学力を伸ばした指導方法を共有することができる。また、県独自の学習支援カルテ「コパトンのびのびシート」を活用し、生徒の学力や学習状況等を多面的に把握し、学習指導の充実・改善を図ることもできる。

(2) 年間指導計画の例

(第2学年)

2 学年修了時における学習到達目標		聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
<p>簡単な電話の伝言や旅行ガイドを聞いて、必要な情報を把握することができる。</p> <p>学年ごとの目標を適切に定め、3 学年間を通じて外国語科の目標の実現を図ること。</p>		簡単な電話の伝言や旅行ガイドを聞いて、必要な情報を把握することができる。	簡単なノンフィクションや物語を読んで、その概要や要点を理解することができる。	与えられたテーマについて、自分の考えを整理しながら対話することができる。	日本の文化や自分に関心のあることについて、情報を整理しながら説明することができる。	日本の文化や自分に関心のあることについて、情報を整理しながら文章で伝えることができる。
月	配当時間	単元	主な言語材料	主な目標	評価	小学校・他学年及び他教科等との関連
4	7	ジョンの絵日記 (物語文) 北京滞在の絵日記を読む 会話を続けよう (会話) 一言付け加えたりして、会話を続ける	5 領域を関連付け、それらを統合的に扱う。	北京滞在の物語文を、ICT 機器を用いながら読んで、必要な情報をわかりやすく簡潔に理解することができる。 春休みの生活について、一言付け加えたりして、一分程度会話を続けることができる。	「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点【3(1)】	<社会 (地理的分野) (中1) > アジア州
5	2	Let's Talk 1 道案内をしよう	How can I get to ~?	英語を用いて、相手を正しい場所まで案内することができる。 自分の将来像や将来の夢について考えながら、to 不定詞が用いられた英文を聞いて理解することができる。	<英語 (小5) > Where is the treasure?	
11	9	My Dream AI(人工知能)のある暮らし My Dream (意見文) 将来の夢についての手紙を書く (手紙) 職場体験先に自己紹介の手紙を書く	不定詞 (名詞的用法, 副詞的用法, 形容詞的用法) Will you ~, please?	将来の夢についての意見文を読んで内容を理解でき、自分の考えをもつことができる。 職場体験先に自己紹介の手紙を書くことができる。	<英語 (小6) > What do you want to be? <特別活動 > 職場体験学習	
12	2	Let's Talk 6 電話をしよう Let's Listen 5 留守番電話のメッセージ 話し手が伝えたいことを聞き取る	電話での応対で、依頼したり承諾したり、謝ったりすることができる。 簡単な電話の伝言を聞いて、必要な情報を把握することができる。	「社会に開かれた教育課程」の視点【3(4)】		
3	P2	Project 2 自分の夢を紹介しよう 将来の夢や、将来やりたいことについてスピーチをする	動名詞	将来の夢や、将来やりたいことについて聞き手を意識しながらスピーチをするところができる。 スピーチを聞き、自分の考えと比べながら相手の考えを理解することができる。	「主体的・対話的で深い学び」の視点【3(2)】	<国語 (中1) > スピーチをする

1	7	オリンピック・パラリンピックの歴史について知ろう 家族や友人について紹介してみよう	比較級、最上級（形容詞・副詞） 同等比較	「単元のまとまりを見通した学習」を太枠で囲むことで、その達成に向けて指導計画を立てる。	まとまった内容の英文から必要な情報を読み取ったり、聞き取ったりすることができ、比較級、最上級（形容詞・副詞）、同等比較を含む用法・文構造を理解することができる。 オリンピック・パラリンピックの出場者について、比較表現を用いて、 情報を整理しながら説明することができる。	「単元のまとまりを見通した学習」では、特に学習到達目標に関わる目標を立て、到達度を検証する。	＜保健体育（中3）＞文化としての理解
2	7	東京 2020 オリンピック・パラリンピックについて説明しよう					
3	9	Malaysia, My Country マレーシアってどんな国？	この課における単元計画例、1 単位時間の指導計画例は、次ページ以降を参照のこと。		多言語の国や人・ことば・社会の結びつきについて関心を高め、受け身を用いて自分の好きな国について簡単に説明することができる。	＜社会（地理的分野）（中1）＞アジア州	
4	9	Malaysia, My Country (説明文) マレーシアの言語についての新聞記事を読む	受け身		マレーシアの言語についての説明文を読んだ、内容を理解することができる。		
5	2	メールを書こう（メール）日本に行ったときに使える日本語について、メールの返信を書く			日本に行ったときに使える日本語について、（返信の）メールを書くことができる。	＜技術（中3）＞情報の収集と加工	
6	2	Let's Talk 7 買い物しよう	This shirt is too ～.		要望を伝えることができる。 提案することができる。	＜英語（中1）＞Let's Talk 買い物しよう	
7	3	Project 3 自分の町を紹介しよう 自分の町について、（返信の）メールを書く	There + be 動詞 + ～.		自分の町について、（返信の）メールで情報を整理しながら文章で伝えることができる。 メールを読み合い、概要や要点を理解することができる。	＜総合的な学習の時間＞郷土について	
8	3	Let's Read 2 Tea and Ama Rattwatie （説明文）スリランカのアマさんの伝記を読む			説明文を読んで、アマさんの世界での活躍について理解することができる。	＜道徳＞国際理解、人類愛	

合計 140 時間

1 年間を見通し、どの時期に「単元のまとまりを見通した学習」を行うかを設定し、単元ごとの配当時間を決定する。配当時間の合計は 140 時間とする。

「道徳教育の充実」の視点【3(5)】

(3) 単元計画例

ア 単元計画作成のイメージ

	1	2	3	…	…	…	単元における最終時間
ねらい	・概要をつかむ。	・個々の言語材料の理解と習熟を図る。 ・内容理解にとどまらず、題材について考えを深める。					・単元で学習した言語材料や題材を生かした活動を通して、目標の達成を見取る。
授業展開の考え方・活動例	帯活動 身に付けるべき資質・能力を育成するために、様々なアプローチで、短時間の活動を毎時間継続的に行う。例：Q&A/Chat/Small Talk/リスニング活動/Dictation など						
	概要の把握 活動例 ・ICT 機器やピクチャーカード等を活用し、題材について生徒とインタラクションを行う。 ・本文を通して聞き、ピクチャーカードを並び替える。	個々の言語材料/題材の内容についての理解・習熟 「思考力、判断力、表現力等」の育成 「学びに向かう力、人間性等」の涵養 「知識及び技能」の習得				目標の達成を見取る活動 活動例 ・Reproduction ・Retelling ・内容の要約 ・題材についての表現活動 ・単元で学習した言語材料の活用を中心とした活動	
留意点	・題材と生徒を近づけ、レディネスを高めるような活動を設定する。	・「 <u>思考力、判断力、表現力等</u> 」を育成する活動を行いながら、「 <u>知識及び技能</u> 」を習得させるよう活動を工夫する。その際、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動する。その過程を通して、「 <u>学びに向かう力、人間性等</u> 」を育成する。				・既習の言語材料を総合的に活用する活動を設定する。	

イ 単元計画の具体例

(ア) 単元の主たる目標 (第2学年)

- ①まとまった内容の英文から必要な情報を読み取ったり、聞き取ったりすることができる。
- ②比較級、最上級(形容詞・副詞)、同等比較を含む用法・文構造を理解することができる。
- ③オリンピック・パラリンピックの出場者について、比較表現を用いて、**情報を整理しながら説明することができる。**

(イ) 単元の評価規準 (省略)

単元の第1時の授業では、扱われている題材を取り上げたり、英文全体を聞いて概要を把握したりするなど、題材へのレディネスを高める。

(ウ) 指導と評価の計画

	◆ねらい・学習活動	評価規準	評価方法
1	◆Lesson 全体の概要を理解する。 ・Oral interaction ・リスニング活動	最終時の活動に向けて、題材について考えを深めさせていく。内容理解にとどまらず、他者との意見交換を図りながら、自分の考えを表現する機会を作るように、発問を工夫する。	
2	◆比較級、最上級(形容詞・副詞)を含む用法・文構造を理解できる。 ・リスニング活動「クイズ・誰か当ててみよう！」		
3	◆英文の内容を理解するとともに、題材について考えを深める。 ・Oral interaction ・Q&A ・音読 ・スピーキング[やり取り]活動(ペア活動)		
6	◆まとまった内容の英文から必要な情報を読み取ることができる。 ・Oral interaction ・Q&A ・音読 ・リーディング活動		
7	◆東京 2020 オリンピック・パラリンピック出場者リストを読んで、金メダルを取ってほしい選手について、比較表現を用いて、 情報を整理しながら説明することができる。 ・スピーキング[発表]活動 ・グループ活動…意見交換をして、考えを深め合う。		
後日	◇パフォーマンステスト ◇定期テスト 「主体的・対話的で深い学び」の視点【3(2)】	この計画では、単元最終時間に、題材を生かした表現活動を設定した。教科書の英文等を活用して、言語材料の定着を図る活動を設定することもできる。	

(4) 1 単位時間の指導計画例

ア 本時の指導計画 (第 2 学年)

(ア) 本時の目標 (本時 7 / 7)

東京2020オリンピック・パラリンピック出場者リストを読んで、金メダルを取ってほしい選手について、比較表現を用いて、**情報を整理しながら説明することができる。**

【話すこと [発表] ウ】

(イ) 本時の展開

学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ◆評価
1 ウォームアップ (1) あいさつ (2) ティーチャーズトーク (3) ペアチャット	生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。 Various topics on the daily life Expressions Ss have already learned	・生徒の反応を大切にしながら、英語でインタラクションを行う。 ・興味のある話題について即興で伝え合うように表現シートを工夫する。
2 前時までの復習 (1) 教科書本文の音読 (2) 新出文法のまとめ	Dialogue from the textbook Ken is as tall as his brother. He is taller than me. He is the tallest in my class.	・正確な発音への意識を促す。 ・ICT 機器を活用し、全ての生徒が必要な情報をわかりやすく、簡潔に理解できるように工夫する。
3 本時の学習 (1) 目標の提示 (2) 教師のモデル発表 (3) 口頭練習 (4) リーディング活動 (5) スピーキング活動 ① 練習 (個人→ペア) ② 発表 (グループ) ③ 代表発表 (全体)	東京 2020 オリンピック・パラリンピック出場者リストを読んで、金メダルを取ってほしい選手について、比較表現を使って発表しよう。 I'd like to tell you about the 100-meter race. This is Beth Thompson. She is from Jamaica. She is the fastest woman in the world. I think she will get the gold medal. I'd like to tell you about 【競技】. This is 【選手】. She/He is from 【国名】. She/He is the 【～est】 in the world. I think she/he will get the gold medal. List of athletes in the Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 Presentations Ss make	「特別な配慮を必要とするなど課題を抱える生徒への指導」の視点【3(1)】 ・選手の画像を使用して、モデルとなるようわかりやすく発表する。 ・様々な選手を例にして、何度も口頭練習させる。 ・リストの中から発表したい選手を選んで、必要な情報を読み取らせる。 ・生徒に適宜フィードバックする。 ・アドバイスし合うよう指導する。 ◆東京 2020 オリンピック・パラリンピック出場者リストを読んで、金メダルを取ってほしい選手について、比較表現を用いて、 情報を整理しながら説明することができる。 ・多様な考え方に対する理解を深めながら聞き、発表後は相手に拍手や Good job.等の声掛けをするよう指導する。
4 まとめ (1) まとめ (2) 振り返り (3) あいさつ	「主体的・対話的で深い学び」の視点【3(2)】 「道徳教育の充実」の視点【3(5)】	・課題に対するまとめをする。 ・本時の活動について振り返らせる。